

ふじのくに物流ビジョン 後期取組計画2022－2025 評価書



令和7年3月

物流ビジョン後期取組計画の概要

県では、2018年3月に「新ふじのくに物流ビジョン」を策定し、現在は、2022年度から2025年度を計画期間とする「後期取組計画2022-2025」に基づいて、各取組を推進している。

<計画期間>

2018年度 (H30)	2019年度 (H31/R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)
新ふじのくに物流ビジョン 基本構想 (2018~2027)									
前期取組計画 (指標、施策) (2018~2021年度)				後期取組計画 (指標、施策) (2022~2025年度)					

<目指す姿、目標>

目指す姿

未来型物流システムの構築による豊かな暮らしの実現

目標① 県内産業の競争力強化

目標② 環境負荷の軽減

目標③ 暮らしを支える物流の維持・確保

目標④ 災害に強い地域の実現

物流ビジョン後期取組計画の戦略体系

「物流ビジョン後期取組計画」では、**4つの戦略**のもと**11の戦略の柱**を掲げ、多様な主体や関係機関との連携を図りながら総合的に政策を推進している。

戦略

<戦略1>

物流機能の高度化と立地の促進

<戦略2>

物流における
カーボンニュートラルの実現

<戦略3>

地域の未来を拓く
物流システムの構築

<戦略4>

物流サービスを高める
インフラの充実と活用促進

11の戦略の柱

- 1 物流のデジタル化、自動化・機械化と輸送の集約化の促進
- 2 物流の機能強化に資する投資の促進
- 3 物流を担う人材の育成・確保

- 1 環境負荷の少ない持続可能な物流の構築
- 2 モーダルシフトの促進
- 3 道路・港湾・空港における環境負荷軽減の取組推進

- 1 人口減少社会に対応した物流システムの導入
- 2 災害に強い物流システムの構築

- 1 陸海空の交通ネットワークの一層の充実（道路）
- 2 陸海空の交通ネットワークの一層の充実（港湾）
- 3 陸海空の交通ネットワークの一層の充実（空港）

物流ビジョン後期取組計画の評価方針

1 指標の評価

4つの戦略における21の指標（再掲分除く）について、**現時点で判明している最新の実績値**を、以下の基準により評価を行う。

<維持目標以外>

成果指標	区分	判断基準
A		「現状値」が「目標値以上」、または「期待値」の推移の30%以上のもの
B		「現状値」が「期待値」の推移の±30%の範囲内のもの
C		「現状値」が「期待値」の推移の-30%以下または「基準値」以下の推移のもの

<維持目標>

成果指標	区分	判断基準
A		「現状値」が「目標値」以上のもの
B		「現状値」が「目標値」の85%以上 100%未満のもの
C		「現状値」が「目標値」の85%未満のもの

2 取組の評価

4つの戦略における79の主な取組（再掲分及び新規追加分除く）について、各事業担当課の自己評価をもとに、以下基準により評価を行う。

取組	区分	判断基準
○		計画どおりに進捗しているもの
●		計画より遅れて進捗しており、今後一層の推進を要するもの

物流ビジョン後期取組計画の総括評価結果

	成果指標 (再掲分除く)				主な取組 (再掲分・新規追加分除く)		
	A	B	C	計	○	●	計
戦略1	1	2	3	6	26	1	27
戦略2	2	3	1	6	14	0	14
戦略3	0	2	2	4	12	1	13
戦略4	3	0	2	5	25	0	25
合計	6	7	8	21	77	2	79
	61.9%						

<評価区分「C」の成果指標>

- ・ 物流事業者が連携して行う輸送の合理化
- ・ RORO船による輸送台数
- ・ ハローワークと連携した物流業界就職相談会への参加者数
- ・ 運輸事業振興助成交付金を通じて導入された環境対応車数
- ・ 住民主体の移動支援を実施している市町数
- ・ 広域物資拠点の代替施設の確保率
- ・ 清水港のコンテナ船東南アジア航路における寄港便数
- ・ 富士山静岡空港の航空貨物取扱量

<「●」評価の取組>

- ・ 自動車運送業界の人手不足に対応するため、大型自動車一種免許の取得及び就労に必要な知識等の習得を目指す職業訓練を実施（職業訓練の受託者公募に対し、応募がなく、職業訓練の一部が開講できなかったため）
- ・ 過疎地域において、新たな生活支援サービス等の創出を図るため、地域支援活動へのドローンやロボットなど革新的技術の導入を促進（物流以外の課題に対し、支援を行ったため）

戦略1：物流機能の高度化と立地の促進

<戦略の方向>

物流の自動化・機械化や高機能な物流施設の立地促進を推進し、物流産業における労働力不足の解消を目指す

<主な取組状況>

- ✓ (一社) 静岡県トラック協会への**運輸業振興助成交付金**を通じ、**物流の効率化に資する設備の導入**を支援
- ✓ **湖西内山工業団地の整備**に向け**実施設計を進めるとともに**、新たに**藤枝岡部町内谷工業用地**について**藤枝市と協定を締結し実施設計に着手**するなど、**物流業を含む事業用地の整備**を推進
- ✓ 健全な経営環境の確保に向け、**コスト上昇分の価格転嫁や取引条件の適正化**を推進するため、**下請取引適正化推進講習会**や**価格交渉支援セミナー**を開催し、**物流業界を含む中小企業のべ234社**が参加

<2026年度以降の取組方針>

- ✓ 引き続き、(一社) 静岡県トラック協会へ**交付金**を通じて、**物流の効率化や生産性の向上**に向けた取組を推進する**機器の導入**を支援
- ✓ 産業団地の**ストックが減少**していること等を踏まえ、**先行造成方式による企業ニーズを踏まえた造成**を実施
- ✓ R8.1月に施行した**下請二法の周知**に取り組むとともに、引き続き、**セミナー等**による**取引環境の適正化**を推進



テールゲートリフター導入支援による
物流の効率化



藤枝市との協定締結式



下請取引適正化推進講習会

戦略2：物流におけるカーボンニュートラルの実現

<戦略の方向>

船舶等を活用した環境負荷の少ない物流網の構築や、港湾・空港等の脱炭素化を推進し、カーボンニュートラルの実現を目指す

<主な取組状況>

- ✓ (一社)静岡県トラック協会への運輸事業振興助成交付金を通じ、**低公害車導入助成**や**エコドライブ管理システムの導入助成**などを支援
- ✓ 荷捌きの合理化を図るための設備を有する物流施設など、**生産性の高い高機能な設備投資等を行う事業者に対する助成**により、**39事業者が物流施設を新設・増設**
- ✓ **再配達削減に向け温暖化対策アプリ「クルポ」のポイント獲得スポット増加**や消費者教育出前講座による周知啓発、宅配ボックス新設へ継続して助成

<2026年度以降の取組方針>

- ✓ 引き続き (一社)静岡県トラック協会への交付金を通じ、運輸業界における環境負荷の低減の取組を促進
- ✓ 推進計画に基づき、空港関係事業者とともに、富士山静岡空港の脱炭素化に向けた取組を推進
- ✓ 「クルポ」で再配達防止ポイントが獲得可能な荷物受取スポット（宅配便直営店等）の増加に向け、広報を強化



低公害車等の環境対応車の導入支援



高機能な荷さばき設備の例



温暖化対策アプリ「クルポ」画面

戦略3：地域の未来を拓く物流システムの構築

<戦略の方向>

過疎地域における新技術等を活用した物流手段の導入や、災害に強い物流の構築を目指す

<主な取組状況>

- ✓ 静岡県過疎地域等政策支援員の支援によるドローンを活用した山間部物流輸送等の革新的技術の導入を支援
- ✓ 県内外の企業が機体開発（ドローン等の次世代エアモビリティ）に挑戦する場として実証フィールド（試験飛行場6箇所、航路3本）を選定するとともに、実証フィールドの利用拡大を目指し、航空に関わるイベント等においてPRを実施
- ✓ 災害時における物資輸送用ドローンの活用に向けて、（一社）静岡県無人機安全協会等と協力し、物資輸送訓練を実施

<2026年度以降の取組方針>

- ✓ 有効な県実証フィールドの広報や利活用を促進するため、専門的知見及びネットワークを有する外部機関に実証フィールド運営を委託し、相談窓口や使用時における企業を支援
- ✓ 災害時を想定したドローンによる物資輸送訓練を実施



ドローンによる山間部物資輸送実証実験



次世代エアモビリティの実証フィールド



物資輸送用ドローン訓練

戦略4：物流サービスを高めるインフラの充実と活用促進

<戦略の方向>

道路・港湾・空港における交通ネットワークの充実化や、利活用促進を図り、物流を支えるインフラの充実を目指す

<主な取組状況>

- ✓ 陸・海・空の総合交通ネットワークを形成する「金谷御前崎連絡道路」の整備を進めており、令和7年3月、国道1号へ接続する**金谷相良道路Ⅱ工区が開通**。引き続き、信号交差点を回避する**バイパス（金谷相良道路Ⅲ工区）整備を実施**。
- ✓ 清水港を発着するRORO船航路の維持・拡大に向け、**九州におけるセミナーでのポートマーケティングを実施**
- ✓ 富士山静岡空港の航空物流を活用して**静岡県、山梨県の地産品を販売、輸送するプロジェクトを推進**

<2026年度以降の取組方針>

- ✓ 国の実施する国道1号静岡バイパス等の整備推進を国へ働き掛けるとともに、県の実施する金谷御前崎連絡道路等の早期開通に向けた取組を推進
- ✓ 運航船社に対して船舶の大型化や週5便への復便に向けた情報収集や働きかけを引き続き実施
- ✓ 引き続き富士山静岡空港の航空物流を活用して静岡県、山梨県の地産品を販売、輸送するプロジェクトを推進



国道473号金谷相良道路Ⅱ工区（R7.3開通）



清水港を発着するRORO船



富士山静岡空港における貨物輸送